

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
札幌情報未来専門学校	昭和45年4月1日	小林 仁	〒060-0005 札幌市中央区北5条西13丁目1番地 (電話) 011-231-7085																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人桑園学園	昭和36年12月28日	小松 妃呂美	〒060-0005 札幌市中央区北5条西13丁目1番地 (電話) 011-221-3938																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
工業	工業専門課程	ITシステムエンジニア学科	平成7年1月23日 文部科学省告示第7号	なし																						
学科の目的	ソフトウェアシステムの設計、開発、運用までの知識・技術を持ち、組込系の主体となすハードウェア制御の専門技術を身に付けた総合的かつ実践的なシステム開発技術者を育成する																									
認定年月日	昭和62年4月1日(旧学科名)応用情報工学科 設置認可/平成19年2月22日 ITシステムエンジニア学科に名称変更																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	2,700時間	1,260時間	1,890時間	720時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
60人	70人	0人	2人	4人	6人																					
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 各科目に於いて、4/5以上の出席した者を評価対象とし、試験及び平常点を加え総合的に評定し、S、A、B、C、Dの5段階で評価する。C以上の成績を修めることで単位認定する 評価の方法: 評価は、小テスト、定期テスト、課題提出状況、出席、平常点を加味し公平に評価する																						
長期休み	■学年始: 4月1日～4月10日 ■夏季: 7月27日～8月19日 ■冬季: 12月26日～1月13日 ■学年末: 3月20日～3月31日		卒業・進級条件	各学科に修業年限在籍し、必修科目を含む所定の単位数、授業時間数以上を修得すること。また所定の学費が完納されていること。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 授業内および放課後の指導・補講、長期休みを活用した補講(個別補講含む)などによるフォローを年間継続して実施		課外活動	■課外活動の種類 学生自治組織「学友会」・ボランティア・体育祭他のイベント運営を展開 ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) システム開発企業、IT業界 ■就職指導内容 入学時から卒業時までの3年間を通して、働くことの意義、一般教養、適性検査、エントリーシートの書き方、履歴書作成などを学ぶ。 ■卒業生数 6人 ■就職希望者数 4人 ■就職者数 4人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 66.7% ■その他 進学者数: 0名、ケアサポート: 1名、未定者: 1名		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング検定2級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>Accessビジネス技能試験2級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>Excel表計算検定2級</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	6人	1人	Javaプログラミング検定2級	③	6人	4人	Accessビジネス技能試験2級	③	3人	3人	Excel表計算検定2級	③	5人	5人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
基本情報技術者試験	③	6人	1人																							
Javaプログラミング検定2級	③	6人	4人																							
Accessビジネス技能試験2級	③	3人	3人																							
Excel表計算検定2級	③	5人	5人																							
(令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																										

中途退学の現状	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 4%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者49名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者47名(令和4年3月31日卒業者をを含む) ■中途退学の主な理由 進路変更にて就職1名、病気1名</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任による日常指導と随時面談実施。日常生活等の改善が見られない場合は父母への状況報告行い、三者面談実施する。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特待生出願制度(1種…在学中の半期授業料(26万円)免除、2種…初年度の半期授業料免除、3種…初年度の半期授業料半額免除)</li> <li>・指定校推薦奨学生出願(当校の指定する道内高校からの推薦出願者に対して、初年度15万円支給、検定料1万円免除)</li> <li>・母子・父子世帯支援制度、再進学支援制度、家族支援制度(初年度のみ、10万円支給)</li> <li>・AO奨学生制度(AO出願により合格した生徒の中から希望者に選抜試験を実施。試験結果により初年度のみ5万円または10万円支給)</li> <li>・札幌情報未来専門学校奨学生制度(選考試験により、奨学生A…15万円、奨学生B…10万円、奨学生…5万円を支給)</li> </ul>
	<p>■専門実践教育訓練給付: 非給付</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://sapporo-mirai.ac.jp">https://sapporo-mirai.ac.jp</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、随時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校の教育理念である「社会の支えとなる情報利用技術における幅広い専門知識と高度な技術を修得せしめ、これからの情報社会の中核となる有能な人材を育成する」をもとに、国や北海道のIT企業のニーズに対応するため、有識者、企業に在籍している委員の意見を参考に教育課程の編成を行う。その為に「教育課程編成委員会」を設置し、積極的に教育課程の改善と工夫を行う。また、委員会を定期的に開催することで、学生の習得状況や実態も考慮しながら、より実践的な職業人を養成できる効果的な教育方法を検討、討議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

年に2回実施される教育課程編成委員会で実践的、専門的な職業教育の実施に向け必要な情報の収集と提言、審議を行い実践教育課程の編成に活かす。

教育編成委員会では、次の事項について審議を行う。

- ・業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性に関する事項
- ・実務に必要な最新の知識・技術、技能に関する事項
- ・学則の教育課程に関する事項
- ・実習・演習に関する事項
- ・その他、職業教育に関する事項

以上の審議の提言、意見を活用しカリキュラム検討委員会で実施に向け検討する。複数回の会議を経て最終案を職員会議で審議し、校長の決裁を経て実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
武田 亘明	公立大学法人 札幌市立大学デザイン学部 准教授	令和3年11月1日～ 令和5年10月31日(2年)	②
小野 哲雄	国立大学法人 北海道大学大学院 情報科学研究院 教授	令和3年11月1日～ 令和5年10月31日(2年)	②
大竹 正亮	株式会社ジャパンテクニカルソフトウェア HR推進部リクルート推進室 シニアアドバイザー	令和3年11月1日～ 令和5年10月31日(2年)	③
小林 仁	学校法人桑園学園 札幌情報未来専門学校 校長	令和2年11月1日～ 令和4年8月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月予定)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年1月12日(水) 17:30～18:30

第2回 令和4年6月1日(水) 17:00～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

提言により最新のIT技術に関する科目の設定を行い、企業が求めるエンジニアのスキルに対応できるカリキュラムとした。そのため、限られた授業時間数の工夫と、実習を重視した科目の増加、実習環境の改善を行った。今後は、社会人として必要なコミュニケーション能力の伸長をどのように行うかが課題となっている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・システム開発を実務としている企業と連携し、現場で必要とされる実践的な知識とスキルを修得できるようにする。
- ・実務担当者から業界の最新情報や過去の経験をもとにした実例を解説することで学生が将来の仕事のイメージを明確に持つようになり就業意欲を向上させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・連携企業によるプログラミング手法
- ・実務担当者から業界の最新情報や過去の経験をもとにした実例を解説することで、学生が将来の仕事のイメージを明確に持つように促し、就業意欲を向上させる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
システム検証Ⅰ	開発時の設計書を元に作成物をトレースしていきます。システムにはどんな画面や動きがあるのか、どれだけのプログラムが書かれているのか、システムをトレースしながら検証していきます。検証した結果を新しい設計書として完成させるのが目標です。	(株)シンクスバンク
システム検証Ⅱ	プログラムではなく“システム”をテストすることを目標に、これまで学習してきたテスト技法を実践していきます。ホワイト/ブラックボックステスト、ドライバとスタブ、条件網羅や判定網羅、カバレッジ、デシジョンテーブル等々、テスト計画をたててバグを発見することが目標です。	(株)シンクスバンク
システム改修	『システム検証Ⅰ～Ⅲ』を通して評価してきた既存システム(前年度卒業制作の成果物)に仕様変更を加え、何をどうすれば理想的なシステムに近づくのか、あるいは、致命的なバグがあったとき修正なのか、どんな変更を行うのかを考察・決定できる能力養う。	(株)シンクスバンク

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員は年度の業務計画書に基づき、年間研修スケジュールを定めて計画的に受講する。IT業界や企業が求める実務知識や効果的な指導方法を習得し、教育内容及び学生の指導方法に反映させることを目的とする。  
研修としては、自己啓発、技術研修、教育指導方法に関する研修、技術・ビジネス展示会見学、その他能力向上にふさわしいものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「DB/SQL設計研修」	連携企業等: 株式会社ジャパンテック
期間: 令和4年6月27日(月)	対象: ニカルソフトウェア
内容: データベースにおける、データ設計の手法を学ぶ	
研修名: 企業における基本情報技術者試験対策とは	連携企業等: 株式会社ジャパンテック
期間: 令和4年7月25日(月)	対象: ニカルソフトウェア
内容: 企業側における国家試験受験の実際と学校側による教授方法の見直し	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 発達障害者の特徴と指導方法について	連携企業等: 内部研修
期間: 令和4年8月3日(水)	対象:
内容: 発達障害者の個性を学び、効果的な対応と指導方法について学ぶ	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「リモートワークによるシステム開発の実際と問題点」

連携企業等: 株式会社ジャパンテック

期間: 令和 5年 3月24日(金)

対象: ニカルソフトウェア

内容 IT企業のリモートワークによるシステム開発について、実践方法と実務上の問題点を知り展開する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 学生指導に活かす認知行動療法

連携企業等: 北海道私立専修学校

期間: 令和 4年12月22日(木)

対象: 各種学校連合会

内容 日常の学生指導に対しての効果的な手法を学ぶ

4 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

業界団体・教育界・OBで構成される学校関係者評価委員会を設置し、当学園の自己点検、自己評価委員会にて評価された内容に基づいて、改善、指導、支援を行う。その後、自己点検、自己評価の報告書を作成し、ホームページにて公開するとともに、具体的な取組の改善をはかる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材等
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果・単位取得・学生満足度
(5) 学生支援	学生支援・奨学金
(6) 教育環境	教育環境・実習環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務状況・経営計画
(9) 法令等の遵守	法令等の順守
(10) 社会貢献・地域貢献	成果
(11) 国際交流	留学生受入れ

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者の指摘により実習教育を重点に配分と、実習機の入替え等を実施した。また、教員の仕事量の軽減のため、教員数を増やすなどの改善を実施することにより、教材研究、個人指導の時間を確保し質的向上を目指した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大野 俊	一般社団法人 北海道リージョナルリサーチ 監事	平成 4年 4月 1日～ 令和 6年 3月 31日(2年)	業界団体関係者
小賀 聡	札幌大学非常勤講師、IT企業代表	平成 4年 4月 1日～ 令和 6年 3月 31日(2年)	業界団体関係者
英 大典	札幌情報未来専門学校 非常勤講師	平成 4年 4月 1日～ 令和 6年 3月 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: URL: <https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/>

公表時期: 令和4年8月31日

5 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校は、教育機関として、業界、地域樹民に教育活動や学校運営情報を提供するとともに、学生、父母に対しても広く情報を発信する。実践的、専門的なITエンジニアの養成をするにあたり、業界や地域社会に当校の評価と理解を促し、社会的な信頼と地域の基幹として存在を得ていくことを目指す。

## (2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念、教育目標、法人設置情報の開示
(2)各学科等の教育	入学者に関する情報、進級、卒業条件等
(3)教職員	組織、教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取り組み、実習時間、実習環境
(5)様々な教育活動・教育環境	課外活動、ボランティアの促進
(6)学生の生活支援	学生支援、奨学金制度
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、経済的支援措置
(8)学校の財務	貸借対照表、資金収支計算書
(9)学校評価	学校自己評価報告書による改善方策
(10)国際連携の状況	留学生受入れ準備
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: URL: <https://sapporo-mirai.ac.jp/aboutus/information/>

公表時期: 令和4年10月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程ITシステムエンジニア学科学科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		Java I	演算子、判断、繰り返し、配列、メソッドとは、などの基本文法および基本アルゴリズムについて学習する	1前	##	7	○			○		○		
2		○	HTML演習 I	Webページ作りの基本知識から簡単な応用テクニックまで、ステップバイステップで学ぶ	1前	60	3	○			○			○	
3		○	経営戦略・管理	基本情報技術者試験で問われるストラテジ(戦略)手法について学習する	1前	30	2	○			○		○		
4		○	2Dグラフィック	IllustratorとPhotoshopの基本操作を学びます。Illustratorでは各種デジタルコンテンツのグラフィック素材を作成できる能力を身に付けます。Photoshopでは基本的な画像修正、加工が確実にできるようになることを目標とする	1前	60	3	○			○			○	
5		○	コミュニケーション I	就職試験対策講座であるとともに、システムや作品を上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行う	1前	30	2	○			○		○		
6		○	Excel演習	Excelの基本操作から始め、表計算、グラフ作成、データ抽出機能について、順次学習する	1前	60	3	○			○			○	
7		○	ハードウェア	コンピュータ本体の動作原理や内部構造、CPUやメモリなどの構造や仕組み、入力装置や出力装置などの周辺機器に関する構造や種類など、コンピュータを構成する基本的な装置に関して学習する	1前	30	2	○			○			○	
8		○	グループワーク I	システムや作品を上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行う	1前	30	2	○			○		○		
9		○	基本午前対策	コンピュータの基礎知識の中で、2進数等の基数変換、浮動小数点数の考え方、演算処理と命令実行の計算などについて学習する	1前	30	2	○			○		○		
10		○	ソフトウェア	ソフトウェアの基礎知識(OSの役割や機能)と、ソフトウェアを作成(設計)する手法について学習する	1前	30	2	○			○			○	
11		○	ネットワーク	基本情報技術者試験で問われるネットワークの構造と用語を学習する	1前	30	2	○			○		○		

12	○	セキュリティ	基本情報技術者試験で問われるセキュリティの構造と用語を学習する	1前	30	2	○			○	○		
13	○	データベース	基本情報技術者試験で問われるデータベースの概念、構造と用語を学習する	1前	30	2	○			○		○	
14	○	アルゴリズム I	フローチャートの記号の意味や使い方、アルゴリズム基本構造やデータ処理の基本をフローチャートでの書き方を学習する	1前	30	2	○			○		○	
15	○	Java II	オブジェクト指向とは、継承、クラスの派生と多様性、抽象クラス、インターフェース、例外処理等について学ぶ	1後	##	7	○			○		○	
16	○	HTML演習 II	Webデザインにおけるワークフローを理解するとともに、Webスタンダードを意識した(X)HTMLとCSSを使った実践的なテクニックを総合的に学習する	1後	60	3	○			○			○
17	○	SQL演習 I	SQL文を、実際のDB環境で実行確認し、さらに知識を増やします。特に、GROUP BY、JOIN、サブクエリを確実に記述できるよう学習する	1後	30	1	○			○			○
18	○	ゲーム制作 I	Unityを使用し、C#におけるゲームプログラミングの基礎、関数の使用方法などを学習する	1後	60	3	○			○			○
19	○	PowerPoint 演習	PowerPointの使い方を学習し、魅力あるプレゼン資料の作り方を学習するとともに、プレゼンテーション技能認定試験上級合格を目指す	1後	60	3	○			○			○
20	○	システム戦略	情報システム戦略および監査の知識について用語を理解するだけではなく、実際の現場でどのように活用されるのかを考えながら実践的に学習を進める	1後	60	4	○			○			○
21	○	AI概論 I	AI、データサイエンス、IoTの分野の基本的な考え方を学習する	1後	30	1	○			○			○
22	○	マネジメント I	基本情報技術者試験で問われるマネジメント（管理）手法について学習する	1後	60	4	○			○			○
23	○	アルゴリズム II	資格試験でも問われることの多い代表的なアルゴリズム（問題を解決する手法や方法）を学び、システムの構築方法や考え方を学習する	1後	30	2	○			○			○
24	○	グループワーク II	システムや作品を作り上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行う	1後	30	2	○			○			○
25	○	国家試験対策 I	1年次の前期に学習したコンピュータの基礎理論やネットワーク、セキュリティ等について再度理解を深めるとともに、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、その解き方を身に着ける	1後	30	2	○			○			○



26	○		JavaⅢ	Javaのサーバーサイドプログラミングについて学びます。JSP&サーブレットの仕組みを理解し、環境を構築し、実際にWebシステムの開発作業を通して、実践に近いシステム作りのノウハウを学習する	2 前	##	6		○		○								
27		○	CSS・WebSite構築	スマートデバイスが普及し多様化する様々なWebの利用形態に対応可能なWebデザイン手法について、実践を通して学ぶ	2 前	60	2			○	○								○
28		○	SQL演習Ⅱ	SQL文だけではなく、実際にある身近なものをデータベース化するための設計手法を学び、上流工程であるデータベース設計を習得する	2 前	30	1		○		○								○
29		○	3Dグラフィック	Blenderを使用した3Dモデル制作を学習し、まずは基礎的な内容から始め、簡単な3Dモデル完成を目指す	2 前	60	3		○		○								○
30	○		ネットワーク基礎	組織の規模等に応じた適切なネットワーク構成や、機器配置について、セキュリティ面を意識しながら学習する	2 前	30	1		○		○								○
31		○	マネジメントⅡ	プロジェクトマネジメントについての体系的な知識の概要を理解し、企業の経営戦略およびIT戦略を立案、これを遂行するための実践力を学ぶ	2 前	60	3		○		○								○
32		○	Webマーケティング	Webマーケターとしてマーケティング方法にあったWebページの構成やランディングページの構成ができ、その結果がどのようになったのかを分析することについて学ぶ	2 前	60	3		○		○								○
33		○	AI概論Ⅱ	「AI概論Ⅰ」に引き続き、AIや機械学習の考え方や実用例を学習し、Pythonを用いた基本的なアルゴリズムを組み立てる	2 前	30	1		○		○								○
34		○	国家試験対策Ⅱ	「国家試験対策Ⅰ」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に着ける	2 前	30	2		○		○								○
35	○		システム検証Ⅰ	上流工程の理論を理解し、各設計書（仕様書）を読み解き、簡易なコンソールアプリケーションの設計方法について学習する	2 前	60	3		○		○								○
36		○	Word演習	Wordの基礎となる設定を理解し、ビジネス文書や見栄えのする文書を作成・編集するための高度な技術を学習する	2 前	60	3		○		○								○
37	○		ビジネスマナーⅠ	就職内定を取得するために必要なビジネスマナーや一般常識について、就職活動の開始前から対策を行う	2 前	30	2		○		○								○
38		○	一般教養Ⅰ	就職試験における一般常識問題で頻出される基礎的な問題を学習する	2 前	30	2		○		○								○
39		○	コミュニケーションⅡ	システムや作品を作り上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行う	2 前	30	2		○		○								○

40		○	グループワークⅢ	他学年とのコミュニケーションからより実践的なチームビルディングとマネジメントを学習する	2 前	30	2	○				○		○				
41	○		JSP・Servlet 演習	JSPおよびサーブレットを利用し、Webアプリケーションの仕組みとシステム開発工程について学習する	2 後	60	3		○			○						○
42		○	サーバ基礎	サーバに関する基礎知識から始め、ネットワークやセキュリティとの関わり、サーバの種類や役割について学習する	2 後	30	1		○			○						○
43		○	ゲーム制作Ⅱ	ゲーム制作Ⅰで身につけた基礎知識に加え、3Dゲーム開発のプログラミングや設定について学習する	2 後	60	3		○			○						○
44		○	Access演習	データベースの基本から「テーブル」「クエリ」「フォーム」「レポート」といった主要機能、関数やマクロについてAccessの利用方法・操作技法を学習する	2 後	60	3		○			○						○
45		○	HTML応用Ⅰ	JavaScriptの基礎知識とjQuery、CSSを学習し、webサイトにおいて動きのあるサイトを作成する方法を身に付ける	2 後	60	2				○	○						○
46		○	システムマネジメント	プロジェクトでのシステム開発における、企画・提案・見積・スケジュールのノウハウを学習する	2 後	60	3		○			○						○
47	○		システム検証Ⅱ	既存コードの仕様書や部分的な設計書（外部・内部）の作成方法、テスト手法を基にしたテストの実施方法を学習する	2 後	60	3		○			○						○
48		○	グラフィック 応用Ⅰ	これまで「2Dグラフィック」、「3Dグラフィック」で学習した基礎知識をもとに、より洗練されたデザインテクニックについて学習する	2 後	60	2				○	○						○
49		○	AIプログラミングⅠ	AI、データサイエンス、IoTの分野の基本的な考え方を学習する	2 後	30	1		○			○						○
50		○	プレゼンテーションⅠ	プレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力および自己表現能力を高め、就職試験や面接に向けた対策を行う	2 後	60	3		○			○						○
51		○	グループワークⅣ	システムや作品を作り上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行う	2 後	30	2		○			○						○
52		○	一般教養Ⅱ	就職筆記試験、適性検査に出題されやすい一般常識問題や、漢字書き取り、計算問題、SPI問題について学習する	2 後	30	2		○			○						○
53		○	国家試験対策Ⅲ	「国家試験対策Ⅱ」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に着ける	2 後	30	2		○			○						○
54	○		就職準備	就職活動のため、自己分析や企業研究を行い、自分の理想とする職業像や、イメージし、就職試験対策を行う	2 後	60	4		○			○						○

55	○		Java応用	これまで学習してきたJavaの技術と、本科目を通してより実践的なJavaの技術を学びオリジナル制作を行う	3前	60	2			○	○	○					
56	○		システム改修	要件定義が出来上がっている仕様書をもとに、画面設計、プログラム詳細設計を書き起こし、その通りのコーディングを行う。単体テストや結合テストを十分に行い致命的なバグはないか、何をどうすれば理想的なシステムに近づくのかを学ぶ	3前	60	3		○		○		○	○			
57		○	アプリ制作 I	JavaScriptの基本的な学習及び、簡単なアプリを作成できるようになる為、JavaScriptを用いたスマートフォンアプリの開発を学習する	3前	60	3		○		○			○			
58		○	セキュリティ実践演習	これまで学んだネットワーク、サーバ、セキュリティの知識を実際にどのように活用するか、実機を用いて学習する	3前	60	3		○		○			○			
59		○	AI概論 II	「AI概論 I」に引き続き、AIや機械学習の考え方や実用例を学習し、Pythonを用いた基本的なアルゴリズムを組み立てる。	3前	30	1		○		○				○		
60		○	データマイニング	データマイニング（データアナリスト）としての基本知識と手法を学び、AIとIoTの元となるデータを如何にして収集し活用するのか各業界の実例を参考にデータを扱える人材となることを目的とする	3前	30	1		○		○			○			
61		○	国家試験対策 IV	「国家試験対策Ⅲ」に引き続き、国家試験の過去問を用いた問題演習および解説を通して、試験問題に慣れ、その解き方を身に着ける	3前	30	2	○			○			○			
62		○	グループワーク V	システムや作品を作り上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための訓練を行う	3前	30	2	○			○			○			
63	○		就職支援	履歴書、エントリーシートの書き方、面接試験や一般常識、SPIなど就職活動における様々な対策を行う	3前	60	4	○			○			○			
64		○	HTML応用 II	今まで習ったWebに関する知識、HTMLのコーディングスキルを活用し、独自のWebサイト作成を行う	3前	60	2			○	○				○		
65		○	グラフィック応用 II	レイアウトの基本ルールや見る人のことを考えたデザイン、配色やフォント等、より効果的なデザインを取り入れた作品づくりを行う	3前	60	2			○	○				○		
66		○	一般教養 III	「一般教養 II」に引き続き就職筆記試験、適性検査に出題されやすい一般常識問題や、SPI問題について学習する	3前	30	2	○			○			○			
67		○	コミュニケーション III	今まで学習したコミュニケーション力を活用しシステムや作品を作り上げるために必要な他者との意思疎通・意見交換などをスムーズに行うための応用訓練を行う	3前	30	2	○			○			○			

68	○		総合制作	これまで学んだことの集大成として、プロジェクトを立ち上げてシステム開発に取り組む。チームメンバーとコミュニケーションをはかり、協力してシステムを完成させる	3後	##	8					○	○			○	
69		○	コミュニケーション応用	簡単なグループワークを通して相手に自分の気持ちや考えを伝える力を身につけ、社会人として円滑な対応をするための敬語の使い方、挨拶の仕方なども学ぶ	3後	30	2	○				○				○	
70		○	アプリ制作Ⅱ	「アプリ制作Ⅰ」で学習した内容を活かし、さらに深い技術を身に付け、「アプリ制作Ⅰ」で制作したアプリよりもさらに高度な作品の完成を目指す	3後	60	2					○	○			○	
71		○	プレゼンテーションⅡ	「プレゼンテーションⅠ」で学んだ内容を基に、コミュニケーション能力および自己表現能力を高め、就職試験や面接に向けた対策を行う	3後	60	2					○	○			○	
72	○		ビジネスマナーⅡ	前半は、就職内定を取得するために必要な要素を、就職活動の時期に合わせて練習し、後半は、就職後の職場における様々なシーンを想定し、実際に体を動かして練習する	3後	30	2	○					○				○
73		○	基本情報技術者受験対策講座Ⅰ	基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全学年	30	2	○					○			○	
74		○	応用情報技術者受験対策講座Ⅰ	応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全学年	30	2	○					○			○	
75		○	Javaプログラミング受験対策講座	サーティファイ主催Javaプログラミング能力認定試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全学年	30	2	○					○			○	
76		○	基本情報技術者受験対策講座Ⅱ	基本情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全学年	30	2	○					○			○	
77		○	応用情報技術者受験対策講座Ⅱ	応用情報技術者試験の合格に向け、出題範囲や問題の内容理解を目的とし講義を通して対策を行う	全学年	30	2	○					○			○	
78		○	MCP受験対策講座	マイクロソフト認定資格プログラム（MCP：Microsoft Certification Program）の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行う	全学年	30	2	○					○			○	
79		○	MOS受験対策講座	マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS：Microsoft Office Specialist）の合格を目的とし、出題範囲や問題の内容理解を深め、講義を通して対策を行う	全学年	30	2	○					○			○	
合計						79 科目		3,870 単位時間 (197 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学科に修業年限以上在籍し、必修科目と選択科目を合わせて3年間で2,700時間以上で履修所定の単位数以上を修得すること。	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	15週/期

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。